

日本一

みんなの元気で地域をつくる小奴可の里

小奴可の里だより

令和6年10月18

庄原市東城町内堀 1100 番地 1 小奴可自治振興センター内 小奴可の里自治振興区

電話/ファクシミリ 5-0057 onukanosato.jp

第326号



優勝・小奴可剣友会



第78回国民スポーツ大会 広島県（小奴可剣友会）優勝



佐賀県での第78回国民スポーツ大会、銃剣道競技少年男子では広島県が優勝しました。出場は小奴可剣友会のメンバーです。表彰を受けて、左から村田興嗣監督、細川楓河さん、富田健太さん、細川柁河さんです。先日、大舞台挑戦の気持ちを選手三人にミニインタビューできました。

- ①銃剣道を始めたのは何歳？
- ②ほかにスポーツをしていますか？
- ③国体出場を決めてからの気持ちの変化は？
- ④決勝前の夜はよく眠れましたか？
- ⑤みなさんに伝えたいこと

細川柁河さん・先鋒・庄原実業高校2年



- ①6歳から始めました。
- ②小学校でサッカーと水泳。中学はサッカーでした。今はしていません。
- ③特に変化はないですが、国体でも勝とうという気持ちが強くなりました。
- ④ふしぎと緊張もなくて、よく眠ることができました。
- ⑤優勝できたのは、指導の先生、家族、応援してくださったみなさんのおかげなので感謝の気持ちでいっぱいです。

富田健太さん・中堅・東城高校3年



- ①17歳のとき細川楓河君と一緒に国体を目指そうと誘われて。それからです。
- ②中学、高校はサッカー。3年の今は引退です。
- ③国体への出場決定は通過点、必ず優勝するという気持ちで日々の稽古に打ち込みました。
- ④初日の予選で思った以上に疲れたので逆によく眠れました。
- ⑤この優勝は自分だけじゃなく、日々の練習を一緒にした仲間、稽古をつけて育ててくださった先生、支えてくれた家族、応援のみなさんのおかげと深く感謝しています。

細川楓河さん・大将・東城高校3年



- ①7歳、小学1年生です。
- ②水泳とサッカー。今は部活のほうは引退です。
- ③関門を一つ突破した達成感と、同時に気持ちを引き締めました。先生の指導で精神と技術に自信が付きました。
- ④仲間や監督とのミーティングもあり、落ち着いて、ゆっくりと、よく眠れました。
- ⑤仲間、指導の先生、家族、応援のみなさんに、たくさんの思いが込み上げてきますが、「感謝」のひと言に尽きます。ありがとうございました。

応援のお礼・小奴可剣友会代表 井澤継男(前列右)



平素より皆様のご声援、又、この度の思いもかけないご厚志に際しまして改めて皆様にご優勝をご報告し、心よりお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。(銃剣道広島県選手を囲んで)

総合スポーツ大会

小奴可チームはソフトバレーボール男子、ソフトバレーボール女子、ソフトテニスのそれぞれに優勝。ソフトボール、モルックに3位入賞、総合成績で準優勝です。選手のみならず、ご参加ありがとうございました。

モルックという競技。相手チームの視線を背に好投するのは岩本選手です。(10月13日・運動公園)



カレンダー	行事	時間	場所	メモ
10月22日(火)	シルバーリハビリ体操	14:00～	小奴可自治振興センター	
10月27日(日)	サロン・リンゴの里			【移動販売車あり】14:00
11月5日(火)	定期移動販売車(第1火曜)	11:00～	小奴可自治振興センター	【定期移動販売車あり】11:00
11月6日(水)	サロン・すみれ会	10:00～	小奴可研修センター	【移動販売車あり】11:30
毎週火曜	3B体操	10:00～	小奴可自治振興センター	
毎週火曜	未来塾 中学生	19時～	小奴可自治振興センター	月会費500円(小・中ともに)
毎週水曜	未来塾 小学生	16時～	小奴可こども園	小学校下校時間により調整あり
毎週水曜	西城市民病院 移動診療日	14:50～ 15:40～	小奴可研修センター 小奴可自治振興センター	保険証、お薬手帳、診察券も一緒に

林家ひろ木落語会

11月10日(日)午後2時

小奴可自治振興センター

林家ひろ木さん、一年ぶりのふるさと落語会です。文化祭にて同時開催。入場無料。お誘い合わせでご来場ください。

笑門
来福



発表・もっと発見特産品プレゼント

株式会社宇恵ファームのご協力で、新米コシヒカリ5kgを15名にお贈りします。当たりが出たら、まずは事務局にお電話ください。当選番号5・29・55・87・101・138・146・184・200・202・235・257・303・307・352。



応援募金ご協力のお礼

このたびの皆様からの応援募金を小奴可剣友会さまにお贈りしました。誠にありがとうございました。小奴可地区スポーツ協会地区長 名越峯壽

庄原市立
西城市民病院 移動診療
10月は・23日、30日
11月は・6日、13日、20日、27日

募集
職員

小三 □□ □□

『消えた家族』

わたしは、一年生の時に学校で借りた本で、はじめてげんばくのことを知りました。そのときに思ったことは、私が生まれる前に、日本でこんなにおそろしいことがおきたんだということですね。そして、げんばくのことを知りたくて、この本を買いました。この本は、太平洋せんそう末期の昭和二十年八月六日、広島に一発のげんしばくだんが落とされるまで、たしかに生きていた、鈴木六郎うさん一家のきろくが書かれた本です。わたしは、この本を読んで、しあわせだった毎日が、げんしばくだんによって、かんとんにこわされたことを知って、げんばくろしさを知りました。

なんにもしていないのに、もし、わたしがこうなっていたら、なぜ、こんな目に合うのかと思うでしょう。これからの日本にそんなことは、おきてほしくないと思いました。

そして、じぶんが今、しあわせなくらしができていることを、ありがたいとおもいました。この気持ちをわすれずに生きていきたいと思いました。

小四 □□ □□

「がんばる」ってなんだろう

主人公の始が転校したクラスには神様がいた。名前は、「びりっかす」。テストの点数が、一番低い生徒にしか見えない神様だ。二十センチくらいの大きさの男で、背中に小さな翼があって、空中をゆっくりに羽ばたいている。

クラスメートはみんな神様を見たくて、わざと0点を取ったり、名前を書き忘れたりした。しかし、ある日、頑張っている人に悪いと思って、みんな、いい点で、びりになることに決めた。すると、クラスの力が高まってリレーも強くなった。

がんばるということは、一番を目指したり、人に勝ったりすること、というイメージがあった。でも、この本を読んで、がんばるって競争だけではないと思った。いっしょに努力したり、一つのことを協力して成し遂げたりすることが大切だと気づいた。

小六 □□ □□

『泣いた赤おに』

「おもしろい!」、どんどん読めました。

私が、『泣いた赤おに』という本を読んでみて、一番おもしろかったところは、赤おにが、自分の家に人間たちを招いて、友だちを作ろうとして準備した立て札です。その理由は、立て札はカタカナで書いてあったのです。なんでカタカナで書くんだらうと思っただけで、赤おには、だれにでも読んでもらえるように、わかりやすいカタカナで書いたことがわかりました。でも、これは、なかなかうまくいきませんでした。

どうしたら人間となかよくできるのか。赤おにと、友だちの青おには計画をつくりました。いよいよ、青おにが村へ行って、わざとあばれているときです。予定どおり、赤おにが止めにやってくる、青おにを、ぼかぼかなぐると、青おにが逃げていきました。

ここまでが順調です。ところが、青おにが逃げる途中、柱にぶつかって、こぶを作りました。それを見た赤おにが、あわてて、とっさに助けに行ったのです。これは予定にはありませんでした。見ていた村の人たちは、赤おには優しいなと思いました。それから、人間たちは、恐れていた鬼たちを、いい鬼だと思っようになっていったのです。よかったです。理解をしたんだなと思いました。この話を読んで、私も、村の人たちに似ていることがわかりました。大切なことを教えてもらったような感じでした。

小六 □□ □□

『かえってきたまほうのじどうはんばいき』

私は、本を読むことが好きでいつも本を読みます。だから、学校の宿題に読書感想文が出たときに、「毎年、出るなあ」と思いました。それと、せっかく読むなら、なにがいかと考えました。4年生の時に読書感想文に読んだ、『まほうのじどうはんばいき』という本には、次のバージョンの『かえってきたまほうのじどうはんばいき』という本があるよと、いつか友だちが言っていたのを思い出しました。私が、「その本、どこにあるの」と友だちに聞いてみると、なんと、「持っているよ」と教えてくれました。「貸してちょうだい」

『いよいよ』

こうして貸してもらえなくなりました。なので、その本を手にしたときに、「もう一冊あるんだ。あの次があるんだ!」と、わくわくした気持ちになりました。

『かえってきたまほうはんばいき』には、はるかという女の子が出てきます。はるか、学校の帰り道に、星の絵が描いてある不思議な自動販売機を見つけました。ボタンと受取り口があるだけで他には何もありません。おそろおそろボタンを押したら、出てきたのは、大きな消しゴムでした。ほしいものがでてくる自動販売機だったので。はるかは、このことを友達に話してしまい、その話が町全体に広がりました。この場面で、いろんな人がまほうの自動販売機を使ってしまいます。はるかが、自動販売機が働きすぎてしまうから、「使わせてはいけないのかな」ということころには、私も賛成です。だって、私もずっと、同じところ勉強しろって言われたら、とってもしんどいから、その気持ちは分かる。やがて、まほうの自動販売機が消えてしまつて、数日後には、「こうへい」という男の先生が、新しくやって来ました。はるかが、元気の無いようすだったので、こうへい先生が声をかけました。「実は先生も不思議な販売機に会ったことがあるんだよ」というところまで気づきました。こうへい先生は、前のバージョンの本では、まだ、ごもでも、しかも主人公で出ていました。この場面にはとても驚きました。こんなふうにして始めから終わりまで一気に読んでしまいました。

小六 □□ □□

『七不思議神社』

私がこの本を読もうと思ったきっかけは、ちょうど私が面白い本をさがしていたときに、この『七不思議神社』という本を見つけたのと、その題名が、とても、おもしろそうだなと思ったからです。

この本は、五年生のリクという男の子が、都会から、いなかの七節町に引っ越してきたことから始まります。ある日、リクが神社にお参りしたとき、鐘を鳴らすと、とつぜん、タクミという男の子が木から落ちてきました。まちの七不思議を集めると願いがかなうことを教えてくれました。それから一緒に七不思議を探していくという物語です。

一番心に残ったことは、「幸運の狛犬」という話です。どうして心に残ったかと言うと、狛犬は、ふつう一匹は口を開けていて、もう一匹は口を閉じています。でも、不思議なことに二匹とも口を開けている時があつて、それを見た人には、幸運が訪れるというところなんです。読みながら、本当に幸運が訪れるのかなと思っただけで、それが本当に訪れたからです。

この本を読んで、自分が住んでいる地域にも、七不思議があるのか調べたりしてみたいと思いました。

『お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件』

中一 □□ □□

私が、『お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件』という小説を読もうと思った理由は、まず、表紙に描かれていた女性がかわいらしかったのと、この本の題名からして、いったい、どんな物語なのだろうと気になったからです。

この小説を読んでみて、主人公の藤宮周に、私は、少し似ているのかなと思いました。例えば、部屋のなか、自分の机の上や引き出しに、物がちらかつていたり。片付けが苦手なところが、友だちも、ぜんぜん少なめで、人と積極的に会話をするのが、ちょっと苦手というところもです。でも、読みながら、ここまでじゃなくても、そういう人は、けっこういるんじゃないかと思っました。

ところで、主人公の周は、天使様と呼ばれているもう一人の主人公、椎名真昼のおかげで、いつのまにか人生を少しずつ、大きく変えていきました。苦手だったはずの、人との積極的なコミュニケーションを堂々とできたりして、はたして、これが同一人物なのかと疑ってしまうくらいです。私も、周みたいになつていきたいくなるような物語でした。